

▲まるで写真のような潜水艦

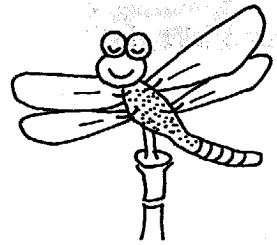
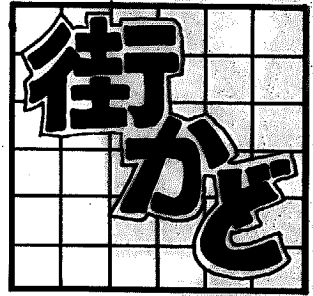
蓮方団地にお住まいの植村東平さん(三十四歳)は、とにかく船が好き。客船、軍艦、潜水艦とペンで描く。

「ペン画をやっている人はめずらしいんじゃないですかね。高校のころから始めて、今まで三百枚位描きましたか」と植村さん。高校時代、美術部に属し先輩がペン画を描いていたのを見て、自分もやってみようと思ったという。

ペン画に必要なものは三つ。ペンと紙と、時間。一枚描くの約一ヶ月、それも毎日毎日一時間以上、コツコツ一人で描く。「お金がかからないのだけが取り得ですね」それでも、最近の仕事(会社員)が忙しくほとんど描けない

ペン画を描いて十五年

植村東平さん(蓮方団地)



状態。

「一年に一作位ですね。大体、冬、こたつに入りながらね。」

「人物などは描きませんか。」

「ええ。子供のころから船が好きで、今でも船を見に港に行ったりしますね。」

——ペン画の難しさは？

「波です。線を引くわけにいかないんで、ちよつとずつ描いていきます。だから、空を大きくとるんですよ。その方が楽だから。」

——まるで写真みたいですね。

「見た人はほとんどそう言います。私としては、写真とはひと味違ったものになりたいんですが……」

——描かれた絵はどうするんですか。

「家に飾っておくと、いつの間にか失くなってるんですよ。友人が持っていたりね。結婚とか新築のお祝いの品にしたりしてます。」

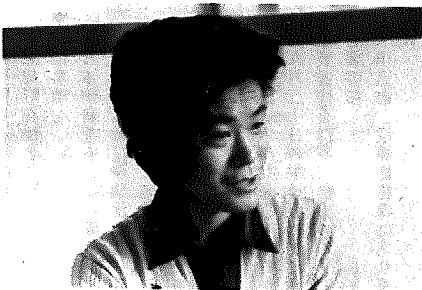
話を伺っていくうちに、話題が船に及ぶ。「やっぱり昔の帆船とか軍艦は美しいですよ。今のタンカーなんか描く気がしない。そして最後に「やっぱり趣味があるっていいですね。」

ペン画に興味を持つ人は植村さんまで連絡を(☎七二五七二九) 期本的な描き方を教えてくれます。

八月の短歌

短歌会

転作の田に唐きびや枝豆の稔りしなりと妻子持ち来ぬ……………松沢 虎男
買へし靴われには小さし孫伴合つて喜ぶわれいと嬉し……………柏 直樹地
浴衣着てはしやき廻る孫達を目に追うておるほろよいの夫……………乙川 竹
新潟の祭り御こしをかつくと云う吾子見んものと夫と出かける……………金内 セツ
四十年苦楽を分ちしこの病夫になしやることの何にかあるや……………泉井 ヨ子
雲一つなき青空に百日紅点し終戦三十六年目の昼……………酒井 庄平
海猫の鳴きたる声に目覚むれば波高きな漁船の帰る……………小出美喜子
魚とる網にささえのからまるをはすせる魚夫に朝光のさす……………阿部 浄子



▶「船には、ロマンがあります」と植村東平さん。

街かど

街かどは、皆さんの写真、絵画、イラスト、短歌、俳句、随筆などの作品や、団体、クラブなどの活動状況、また意見や要望などをお知らせするページです。連絡していただくければ、広報編集者が取材に行きますので、ご協力をお願いします。

投稿 連絡先

黒埼町役場 企画調整課

黒埼町大野二八四二二

☎七二二二〇一